

集落の社会関係資本・社会共通資本からみる サステイナブル・コミュニティの理想に関する基礎的研究

建築・都市計画研究室
18E5019 濱田菜波

研究の背景

持続可能な都市への転換が求められている現代において、これからの地域づくりのヒントを得ようと、**古くからの集落形態や慣習が残る離島地域**を対象に、**サステイナブル・コミュニティの要件**の導出を試みた既往研究が複数あるが、それらは主に大分県姫島村を対象としている

しかし、離島の生活や慣習、生業は、風土や地理的条件等によって多様であり、**普遍的なサステイナブル・コミュニティの要件**を明らかにするには**様々なタイプの離島**におけるケーススタディを**蓄積**する必要があると考えた

目的

持続性のある離島として、既往研究で離島統計年報のデータをもとに**選定された離島**において、**サステイナブル・コミュニティの要件**を、既往研究で得られた8つの項目ごとに整理し、複数の離島で共通している要件を、**地域の持続可能性を支える普遍的な要件**として導出することを目的とした

サステイナブルコミュニティの8つの項目

【**共同体**】 【**土地・家屋**】 【**産業**】 【**交通**】 【**オープンスペース**】 【**境界**】
【**ゾーニング**】 【**生活空間**】

研究方法

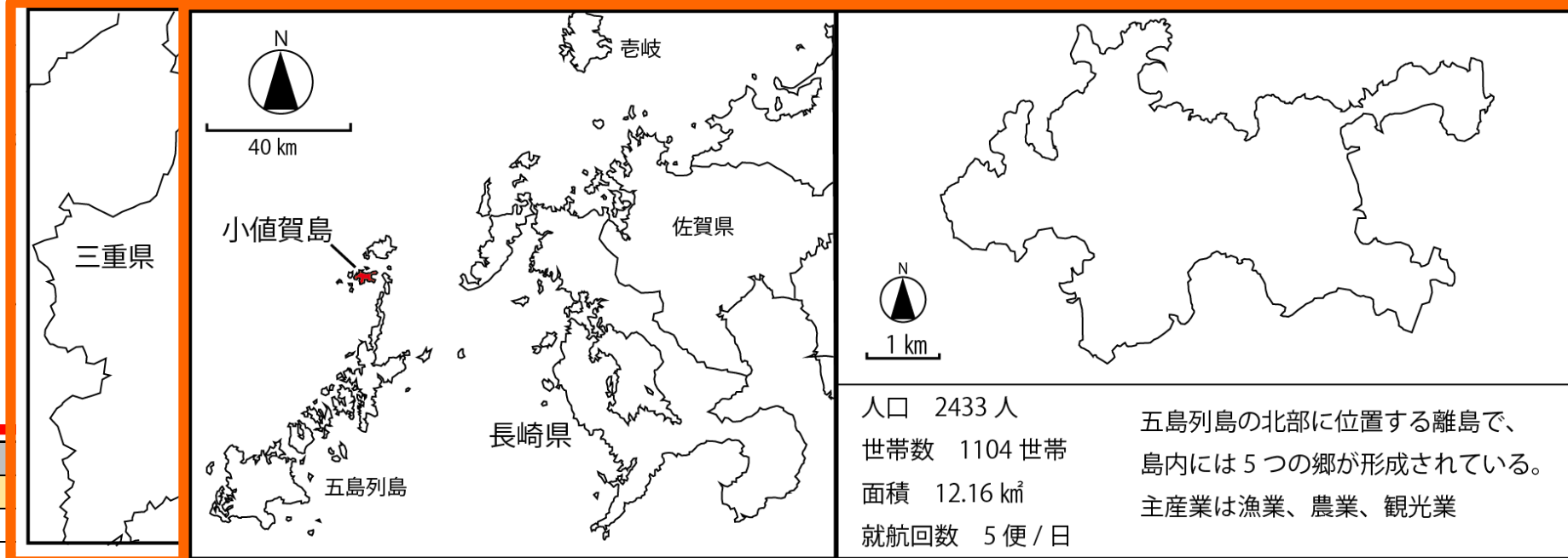
- ①選定離島の【**基本属性**】 【**生活基盤**】 【**産業構造**】 の**2005年から2015年の推移を把握し**、持続可能性を評価する
- ②他の有人離島に比べて、増加又は維持傾向にある項目について、その**要因や島を支える社会関係資本・社会共通資本**を、ヒアリング調査や文献調査によって明らかにする。
- ③②をもとに各離島で、**8つの項目ごとに**サステイナブル・コミュニティの要件を整理し、共通している要件を導出した

既往研究より、選定された離島は、**鹿児島県黒島**、**三重県答志島**、**長崎県小値賀島**、**長崎県度島**の4島である。

選定離島の概要と現況

三重県答志島 生活基盤安定型

長崎県小値賀島 産業安定型



人口 2433 人
 世帯数 1104 世帯
 面積 12.16 km²
 就航回数 5 便 / 日

五島列島の北部に位置する離島で、
 島内には5つの郷が形成されている。
 主産業は漁業、農業、観光業

44.5	56	+25.9% (増加)	26
------	----	-----------------------	----

産業構造											
農業生産額 (百万円)			水産業生産額 (百万円)			宿泊能力(人)			観光客数 (人)		
全離島平均 -46.5%			全離島平均 -23.8%			全離島平均 -11.5%			全離島平均 +80.8%		
2005年	2015年	増減率	2005年	2015年	増減率	2005年	2015年	増減率	2005年	2015年	増減率
541.5	435.8	-19.5% (維持)	744.5	810.1	+8.8% (増加)	148	126	-14.9% (減少)	19.2	36.1	+88.0% (増加)

産業構造					
農業生産額 (百万円)			水産業生産額 (百万円)		
2005年	2015年	増減率	2005年	2015年	増減率
5.9	-	-100% (減少)	2794.6	2327.6	-16.7% (維持)

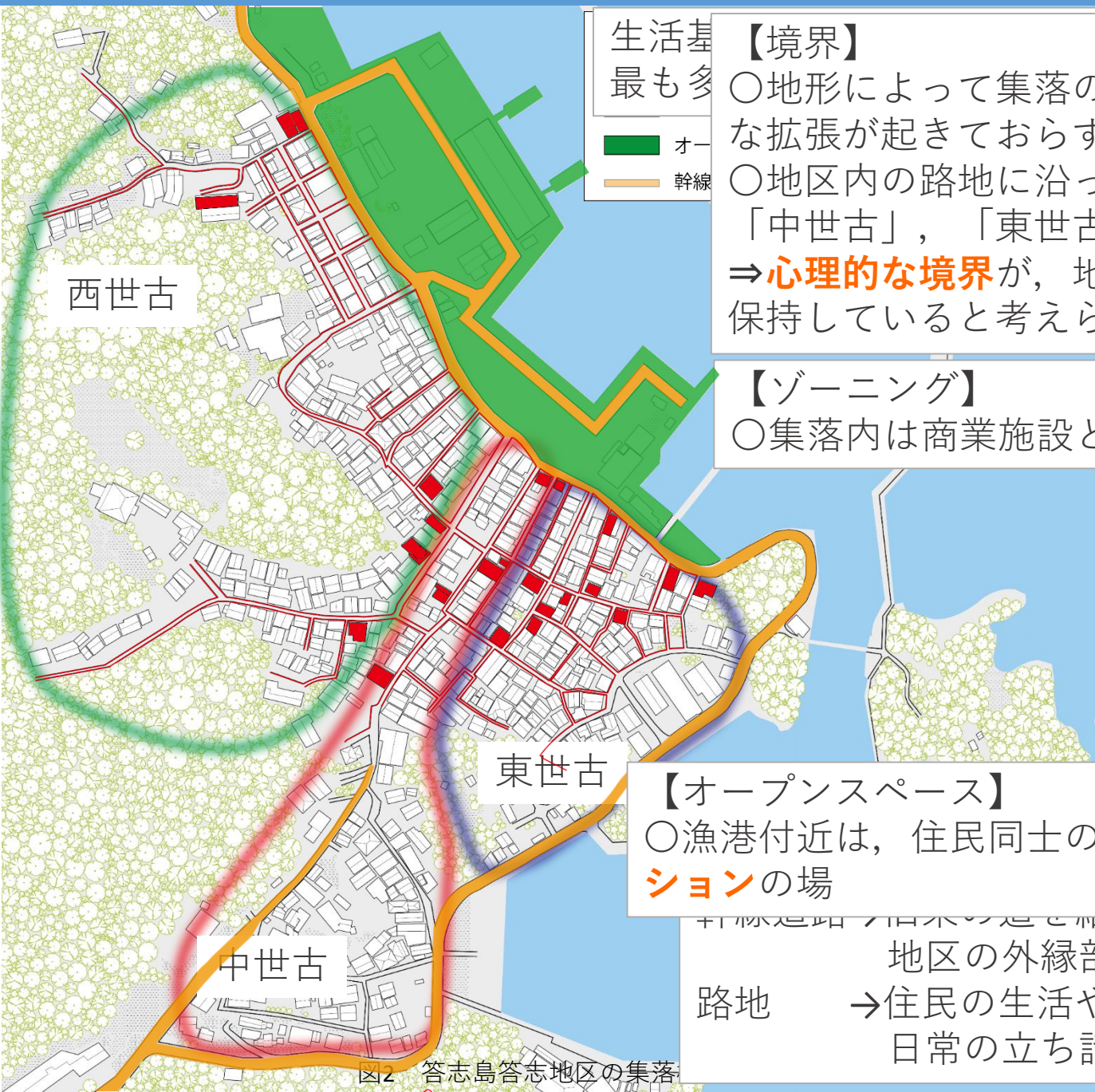
【生活基盤】

道路整備率 全離島平均に比べ**増加傾向**
 就航状況 全離島平均に比べ**増加傾向**
 医療従事者 全離島平均に比べ**増加傾向**
 全国離島の中でも、**生活基盤の整備推進**
 が進んでいる

【産業構造】

農業生産額 全離島平均に比べ**維持傾向**
 水産業生産額 全離島平均に比べ**増加傾向**
 観光客数 全離島平均に比べ**増加傾向**
 全国離島の中でも、**産業が好調である**

答志島における社会共通資本



生活基
最も多
—— オープン
—— 幹線

【境界】

○地形によって集落の境界が明確で、無秩序な拡張が起きておらず、**建物密度が高い**
○地区内の路地に沿って、住民が「西世古」、「中世古」、「東世古」に分かれている
⇒**心理的な境界**が、地区内のコミュニティを保持していると考えられる。

【ゾーニング】

○集落内は商業施設と、住居が**混在**している

【オープンスペース】

○漁港付近は、住民同士の**日常的なコミュニケーション**の場

地区の外縁部に整備
路地 →住民の生活や生業に関する作業場
日常の立ち話

図2 答志島答志地区の集落

答志島における社会関係資本

【共同体】

①世古

各世古は、10組ほどの組で構成されている
例：冠婚葬祭時の資金を共同で積み立てる
⇒日頃から深い関係を築いている

②寝屋子制度

一定年齢の5～8人の男子を、寝屋子として
世話役の寝屋親が預かり、面倒を見る
現在は、帰省の際に、寝屋親の元で過ごす
⇒形態を変化させながらも、仕組みを継承

⇒住民が複数のコミュニティに重複して所属することで、**年齢や性別を超えた相互扶助の関係**を築いていると考えられる。



【産業】

- ・漁協では、1992年から毎週土曜日を休漁日としている
⇒労働環境が向上し、**後継者確保**が可能
⇒休漁による**資源保護**
- ・島内の旅館と提携したり、観光客の市場見学を受け入れる
⇒**他産業と連携**した新たな取り組みを行っている。

答志島の増加維持の要因とサステイナブル・コミュニティの要件

答志島では**道路整備率**,**就航状況**が,全離島平均と比べて増加傾向にあった

○就航状況については,**島民の要請を受け**, **定期船が新たに整備された**ため

○道路整備率は,島の北部の**避難港**や,**漁港関連道が整備された**ため

⇒答志島の**漁業生産額が好調であることが一因**となっていた

表3 答志島におけるサステイナブルコミュニティの要件

要素	答志島におけるサステイナブルコミュニティの要件
共同体	<ul style="list-style-type: none">・ 世古や寝屋子などの複数コミュニティの存在・ コミュニティの仕組み等を時代に合わせて変化させながら継続
産業	<ul style="list-style-type: none">・ 他産業との連携
交通	<ul style="list-style-type: none">・ 集落間を結ぶことで機能補完が可能になる・ 地域内の道路は旧来の形を残したまま、まわりに幹線道路が設けられている
オープンスペース	<ul style="list-style-type: none">・ 漁港や路地などの日常的なコミュニティの場が存在・ 地域内の慣習を支える空間が整備されている
境界	<ul style="list-style-type: none">・ 地形による境界によって、集落内の密度が保たれている・ 世古による心理的な境界
ゾーニング	<ul style="list-style-type: none">・ 集落内の密度が維持されていることによってミクストユースが実現している（住・商）・ 旧来のゾーニングを維持しながら建物を更新している
生活空間	<ul style="list-style-type: none">・ 世古や朋輩での飲み会のように、生活空間がコミュニティ内に開かれている

小値賀島における社会共通資本

笛吹本通りでは秋の大祭時に行列が練り歩き、他郷の住民や来島者も訪れる
→島内外の交流を支える場

笛吹郷のコミュニティの場になっている商店



	店舗
	公共施設
	宿泊施設
	休憩所
	漁業関連施設
	農業協同組合
	幹線道路
	笛吹本通り
	神社



【位置】

小値賀島の商業の中心である笛吹郷を（対象とした

○秋の大祭は各郷で日替わり行われる
→居住地区への地縁が強く、**心理的な境界**となっている

【ゾーニング】

○集落内に**住宅や商店、宿泊施設**が建ち並んでいる

○**集落内の空き家を再生**し、宿泊施設や休憩スペースとして転用している

【オープンスペース】

○郷ごとに店舗や店舗以外で**住民が日常的に集まる場**があり、日頃の雑談や、自治会費の集金なども行われている。

【交通】

○**地域内の道路は旧来の形を維持**したまま、幹線道路が設けられている

【生活空間】

○秋の大祭時には、各家で直会を行い、**他郷の住人や知らない人も招きあう**ことで親睦を深めている

小値賀島における社会関係資本と増加・維持の要因

【共同体】

- ①多文化を受け入れる文化
交通の要所として栄えた歴史
→島外の人や他の文化を受け入れる気質が
現在でも受け継がれている
→島民の約7%を移住者が占めている

- ②とくいどん
漁業従事者と農業従事者の日頃の相互扶助
の取り組み
→魚を差し入れたり，農作物を差し入れする
など，形態を変化させながら継承

【産業】

- ①漁業
魚の鮮度を維持するために，魚の取り扱い
方法を，漁師に徹底周知
→魚のブランド化に成功し単価を上げた

- ②農業
後継者育成のために，「小値賀担い手公
社」による農業研修制度を推進
→島外からの移住者が島内で就農



日宋貿易時の中国船の碇石



増加維持の要因として、島外からの移住者が島内で就農している

4島のサステナブル・コミュニティの要件
 持続可能性を支える普遍的な要件として導出

共同体

サステナブル・コミュニティの要件

黒島（人口産業生活基盤安定型離島）	答志島（生活基盤安定型離島）
<p>産業</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 地域の基幹産業を支える行事や祭事などの共同活動との乖離が起きている ■ 外部参入をしやすくすることで新たな技術・人材を取り込む ■ 地域の雇用創出 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世古や寝屋子などの複数のコミュニティの存在 ■ コミュニティの仕組み等を時代に合わせて変化させながら継続 ■ 働き方等の組織の内部改革 □ 他の産業や外部のものとの連携
<p>交通</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 地域内の道路は旧来の形を維持したまま、周りに幹線道路を設けられている→大里では集落内に幹線道路が通ったことで集落が分断されてしまった 	<ul style="list-style-type: none"> □ 集落間を結ぶことで、機能補完が可能になる □ 地域内の道路は旧来の形を維持したまま、周りに幹線道路が設けられている
<p>オープンスペース</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 港湾整備によって、集落の中心性が失われ、コミュニティスペースが設けられている 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 漁港や路地などの日常的なコミュニティの場が存在 □ 地域の慣習や地縁を支える空間が整備されている
<p>境界</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 旧来のゾーニングを維持しながら建物を更新 	<ul style="list-style-type: none"> □ 地形による境界によって、集落内の密度が保たれている □ 集落の密度が維持されていることによってミックスユースに繋がっている（生活と商業） □ 旧来のゾーニングを維持しながら建物を更新
<p>生活空間</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 自然環境を考慮した家や集落 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生活空間が時には commonspace になる（世古や朋輩での飲み会） ■ 生活空間の大祭



集落内に建ち並ぶ商店と住宅



観光

集落内の路地

生活空間 ・生活空間が**コミュニティに開かれて**おり、時には**パブリックスペース**として**利用**される
 を**支える空間**が整備されている

【共同体】

- ・複数コミュニティの存在
- ・コミュニティの仕組み等を時代に合わせて変化させながら継続
- ・コミュニティに外部からの人や情報を取り入れる

【産業】

- ・内部の組織改革
- ・外部と連携したり，外部からの人や情報を取り入れる仕組み

【交通】

- ・集落間を結ぶことで機能補完を可能にする
- ・地区内の道路は旧来の形を残したまま，周りに幹線道路を設けている

【オープンスペース】

- ・日常的なコミュニティの場が存在
- ・祭事等を通して，集落間の交流を促進する慣習があり，それを支える空間が整備されている

【境界】

- ・地形による境界によって集落内の密度が保たれている
- ・地縁やコミュニティによる心理的な境界の存在

【ゾーニング】

- ・集落の密度維持によってミクストユースが実現している
- ・旧来のゾーニングを維持しながら建物を更新している

【生活空間】

- ・生活区間がコミュニティに開かれており，時にはパブリックスペースとして利用される